

高校生のための出張講義「知のフロンティア」講義一覧(学際)

NO.	学部・学科	担当教員	講義テーマ	講義内容
1	社会学部 現代社会学科	新井克弥	ディズニーから学ぶメディア論	ディズニーといえばミッキーマウスやディズニーランドを思い浮かべますが、実はアメリカ屈指のメディア産業というのが本当の姿。では、ディズニーとメディア論はどこでどうつながっているのでしょうか。ディズニー世界の魅力を探りながらメディア論について学んでいきます。
2	社会学部 現代社会学科	千錫烈	読書の効用	先生や保護者から「本を読みなさい」と言われたことがある人は多いと思います。本当に読書は役に立つの？読書をするとうんないいことがあるの？そんな疑問について図書館情報学の視点から読書の効用について考えていきます。
3	経済学部 経済学科	伊藤 明己	メディアの影響って？	現代では日常にメディアがあふれています。メディアはわたしたちにとって、大きな影響を与えるといわれていますが、それではいったいどんな影響なのでしょう。みなさんと一緒に考えてみたいと思います。
4	経営学部 経営学科	岡部 祐介	スポーツを考える ー東京オリンピック1964/2020に着目して	2020年東京開催が決まったオリンピックを取り上げ、スポーツの現在・過去・未来の在り方についてお話します。スポーツを「する」「みる」だけでなく、「考える」ことの楽しさを追究しましょう。
5	経営学部 経営学科	中村 桃子	ファッション雑誌のことは ーメディアリテラシー入門	普段読んでいるファッション雑誌が、独特の言葉づかいを使って、読者に雑誌を買うように勧めています。そのメカニズムを見ていきます。
6	経営学部 経営学科	細谷 実	世界の知り方	知識を得る方法のモデルとして観察・実験モデルとコミュニケーションモデルとが考えられます。現在私たちがその2つのモデルを組み合わせ併用しています。近代以後なら当然観察・実験モデルを採用すべきところに、大昔はコミュニケーションモデルを用いていました。
7	人間共生学部 共生デザイン学科	佐野慶一郎	ごみのリサイクルに求められていること	環境意識の高まる中、ごみのリサイクルは大切だと考える人が多いです。しかし、ごみはリサイクルするより、焼却した方が「環境にやさしい」と述べる専門家もいます。実は、ごみの種類とリサイクル方法によって、リサイクルした方が良い場合と悪い場合があるのです。本講義では、受講生と一緒に、リサイクルの事例をいくつか挙げながら、一つひとつ「環境にやさしい」か否かを考えながら、わかりやすく解答を導き出していきます。
8	人間共生学部 共生デザイン学科	二宮咲子	フィールドで学ぶ「自然共生社会」のデザイン	地球温暖化や放射性物質汚染、野生動植物種の絶滅など、私たち人間社会の活動が自然環境の容量を超えてしまった今、自然と共に生きる社会への転換が求められています。ところが「自然共生社会」を形づくることは、文系の知識だけでも、理系の技術だけでもできません。さらにはデザインの対象はキャンパスの外に広がる実社会です。そこで、学際的で実践的なデザイン力を育む産学連携のプロジェクト教育が目ざされています。フィールドで学ぶ「自然共生社会」のデザインとは……？そもそも自然と共に生きる社会とは……？大学生が活動の中心となっている最新事例の写真を多数交えながら、受講生の皆さんとの対話型の講義を行いたいと思います。
9	人間共生学部 共生デザイン学科	兼子朋也	未来のためのデザイン	地球環境問題や経済格差など、世界中で課題が山積しています。このままで、未来に生きる人たちは幸せになれるのでしょうか？この講義では、身近な事例の中から、環境に配慮し、人道的見地から社会問題を解決しようとするデザイン(プロダクト・暮らし・まちづくり・サービス)を取り上げて、未来世代のための持続可能なデザインについて考えていきます。
10	人間共生学部 共生デザイン学科	小林和彦	コンピュータが作り出す不思議映像	コンピュータを使って絵を描いたり、映像を加工したりするコンピュータグラフィックス技術によって制作された作品の紹介や、作り方の解説を行います。3次元コンピュータグラフィックスを使用して、何もない所から作られた作品と、目の前にある風景をカメラで撮影して、コンピュータで加工したり合成したりして作られた作品には、どのような違いがあるのかについて、技術的な解説や発想の広げ方などをお話していきます。
11	人間共生学部 共生デザイン学科	日高仁	コミュニティDIYの発想	「市民参加型まちづくり」が提唱されてしばらくたちますが、未だに日本では、まちづくりに一般市民がどう参加してよいかわからない状況があります。我々が暮らすまちを自分たちの手で少しずつつくりあげていく方法はないのでしょうか？自部たちのコミュニティは自分たちでデザインする。コミュニティDIYの発想は、日曜大工などに象徴されるDIY、だれもが自分たちの手で、楽しみながら少しずつつくりあげるプロジェクトを、まちづくりやコミュニティづくりに繋げようとする発想です。KGU空き家プロジェクトなど、関東学院大学で行っているDIYの活動などもご紹介しながら、コミュニティDIYの発想について解説します。
12	人間共生学部 共生デザイン学科	藤本憲太郎	「デザイン」とわたしたちの暮らし	「デザイン」という言葉は、もはやすっかり当たり前のものとなって、わたしたちのまわりに溢れています。しかし、その捉え方は人によって異なり、必ずしも様ではありません。そこで、住宅や家具を例に、それらの「デザイン」の特徴、わたしたちの生活にもたらした影響等を見ていながら、「デザイン」と「暮らし」とのかかわりについて考えます。
13	人間共生学部 共生デザイン学科	水沼 淑子	床に座る？椅子に座る？	日本では明治維新以降洋風化が進行し、今日では椅子に座る暮らし、つまり椅子やベッドなどの家具を使った洋風の暮らし方が一般的になってきました。一方で、私たちは、住まいの中では靴を脱いで生活することから、椅子にも座り、床にも座る、日本独自の新しい暮らし方を生み出してきました。日本ではこのように外来の文化を咀嚼し自らの好みに合わせて取り込むような工夫がこれまでも繰り返されてきました。私たちの住まいのこれからについて、過去の暮らし方を通して考えます。
14	人間共生学部 共生デザイン学科	佐々牧雄	リフレーミングによる発想を体験する	リフレーミングとは、ある枠組み(フレーム)で捉えられている物事の枠組みを外して、違う枠組みで見ることです。元々、心理療法に使われていた手法ですが、現代では新しいことへの着想を生かすなどがよく行われています。この講義は、この「リフレーミングによる発想」を楽しく体験する演習型講義です。リフレーミングは一度身につけてしまうと、今後の生き方に大きく影響するかもしれません
15	人間共生学部 共生デザイン学科	神野由紀	デザインから見た私たちの社会	私たちが今日当たり前と思っている暮らしは、大量のモノに囲まれた生活です。毎日たくさんの中から、自分にとって好ましいモノを選ばなければならないのが現代社会です。ファッションだけでなく、食品から文具、電化製品、さらには住宅まで、あらゆるデザインは、現代の日本文化の多様性を映し出しているといえます。「私たちはなぜ、このデザインのモノを選ぼうとするのか？」、お菓子のパッケージデザイン、カワイイデザイン、ナンセンスなガジェット・デザインなど、さらに様々な広告デザインを通して、日本文化の現状を考えます。
16	人間共生学部 共生デザイン学科	讃井純一郎	デザインのための心理学	デザインに際し、それを利用する人々(ユーザー)のことをよく知らなくては良いデザインはできません。しかしユーザーのことを知りたいからといって安易な気持ちでアンケート調査を行っても、大して役にはたちません。この講義では、デザインとは何かを再確認すると共に、より良いデザインを行うための道具として、心理学の考え方や調査について学習します。
17	人間共生学部 共生デザイン学科	淡野哲	デザインとアートの連関	デザインといっても多岐にわたりますが、なんとなく物事をより良くしようとする何か、と感じている人も多いことでしょう。ではアートはどうでしょうか。アートというと少々身近な存在には縁遠く、人並み外れた才能を持っている人の特別な何か、と感じられているかもしれません。しかしながら、これらデザインとアートを紐解き、その在り方を考察していくと、対極とも感じられる両者には意外にも共通した価値が見えてきます。一見するとわかりにくい両者の関係をわかりやすく紹介していきます。
18	人間共生学部 共生デザイン学科	山崎 稔恵	日常の暮らしへのまなざし	人間が暮らしを営む際の基本の要件は「衣食住」であることは言うまでもありません。近年ではこれまでの反省を込めて、歴史、美術、建築等さまざまな研究分野において日常のあたりまへの暮らしへの関心が高まっています。講義では洋の東西を問わず、とくにニードルワーク(針仕事)をテーマとした美術作品や随筆、書簡等の文献資料を通して作家らの感性に触れるお話をします。それは人間の生きることに深く結びついた普遍的な問題になるはずですよ。
19	教育学部 こども発達学科	照沼 晃子	豊かな出会い、豊かな育ちをねがう乳幼児保育について	0歳から乳幼児が周りの人や物と出会うことは、将来心の原体験となる大切な経験です。そんな乳幼児保育の姿と保育者の仕事について紹介します。

高校生のための出張講義「知のフロンティア」講義一覧(学際)

NO.	学部・学科	担当教員	講義テーマ	講義内容
20	教育学部 こども発達学科	山下 俊幸	「楽しい読み聞かせ」	今、幼稚園や小学校で「読み聞かせ」の大切さが言われています。この授業では、実際に「読み聞かせ」を体験しながら、絵本や児童文学について楽しく学んでいきます。
21	教育学部 こども発達学科	三谷 大紀	乳幼児期に「遊び込む」ことの意味	保育現場では、子どもが「遊び込む」ことが大事にされています。では、なぜ「遊び込む」ことが大事なのでしょう。具体的な事例や映像をもとに、乳幼児期に「遊び込む」ことの意味と、そのために必要な援助のあり方について一緒に考えましょう。
22	教育学部 こども発達学科	久保健太	子どもの「やりたい」にどうかかわるか	子どもは、いろいろな「やりたい」をもっています。「木に登りたい」「ガムテープをちぎりたい」などなど。一方で「登りたいけど、登れない」「ちぎりたいけど、ちぎれない」というときもあります。そんなとき、大人はどうかかわればいいのか。一緒に考えましょう。
23	教育学部 こども発達学科	小原 豊	子どもは小さな数学者： 1+1はなぜ2になるのか	子どもは身の回りの世界を、数や量や形や関係から自然に捉えます。小学校低学年では人気教科である「算数」は、次第に抽象度の高い「数学」になって嫌う方が増えてしまいます。でも、実は悲しい誤解があるのです。この講義では、数学の本当の姿を知り、その楽しさを体験して「数学と仲直り」してもらいます。算数や数学がどうしても好きになれない皆様、ぜひどうぞ。